

講義資料2



## 統合失調症の生活機能障害と作業療法 -心身機能障害、活動・参加と制約・制限-

*Hiroshi Yamane ; OTR, PhD  
Chairman of Society of Human and Occupation-Life:SHOL  
Professor Emeritus of Kyoto University*

### 統合失調症の不思議

- 人類が誕生したときからあるという
- 100人に1人弱発症するという。それは何を意味するのか？
- 性差はほとんどないという。それは何を意味する？
- 思春期から青年期にかけての発症が多い。どうしてなのか？
- ネガティブ, 自分の考え, 命令, 対話性などが特徴の幻聴は何を意味するのか？
- 迫害, 関係, 被害的, 注察などが特徴の妄想は何を意味するのか？

そして

- 原因はいまだ不明。考えられていることは
  - 素因 (ストレスへの脆弱性)
  - 環境
  - 契機 (進学・就職・独立・結婚などの人生の進路 etc.)

## 統合失調症とはどのような病いか

- 人類が誕生したときからある
  - 100人に1人弱発症する
  - 性差はほとんどない
- } それは何を意味するのか？



人間にとって必要なものと関連があるのではと考えてみると

## 統合失調症とはどのような病いか

- 思春期から青年期にかけての発症が多い → どうしてなのか？



社会的動物としての成長と関連があるのではと考えてみると

## 統合失調症とはどのような病いか

- ネガティブ, 自分の考え, 命令, 対話性などが特徴の幻聴は何を意味するのか?
- 迫害, 関係, 被害的, 注察などが特徴の妄想は何を意味するのか?



症状は私たちに迫る危機を知らせてくれるものと考えてみると

## 統合失調症とはどのような病か:その不思議

- 原因ははまだ不明。考えられていることは
  - 素因 (ストレスへの脆弱性)
  - 環境
  - 契機 (進学・就職・独立・結婚などの人生の進路 etc.)



喘息体質と喘息の発作の関連を考えてみると

## 統合失調症とはどのような病か:その不思議

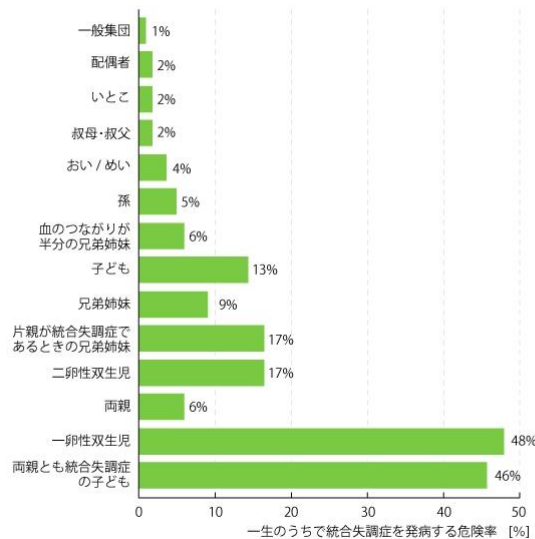
- 原因はいまだ不明。  
 しかし→素因(ストレスへの脆弱性)  
 環境  
 契機(進学・就職・独立・結婚などの人生の進路 etc.)



喘息体質と喘息の発作の関連を考えると

### 親族間における統合失調症の発病率

1920年～1987年までヨーロッパで行われた家系や双生児の研究などから集めた統合失調症の総平均発病率。



出典:「分裂病の起源」日本評論社  
 『統合失調症—正しい治療法がわかる本』 中込 和幸 著 法研

## 統合失調症の不思議

- 変化する疾患名

クレペリン1899 → 複数の脳疾患をカテゴリーとして早発性痴呆症

ブロイラー1911 → スキゾフレニアSchizophrenia



単純型痴呆, 破瓜病, 緊張病, 妄想性痴呆をまとめたもの

\* 日本語: 精神内界失調疾患, 精神解離症, 精神分離症  
精神分裂症など一定しない訳語

1937年日本精神神経学会が精神分裂病提唱

→2002年から統合失調症



統合失調症は一つの疾患なのか?  
スペクトラムという視点

## 統合失調症の中核症状

DSM-IVでは、“統合失調症”と“妄想性障害・短期精神病性障害・統合失調症様障害”は異なる別の精神疾患として診断されていたが、DSM-5では“統合失調型パーソナリティ障害・妄想性障害・短期精神病性障害・統合失調症様障害・統合失調症”は症状の程度が違うだけで連続的な一連の病的状態(スペクトラム)を形成していると考えられている

DSM-5では、統合失調症の中核症状を以下の5つと定義し、その症状の有無・重症度・持続時間を判断する

1. 妄想
2. 幻覚
3. 思考の解体・疎通性のない会話
4. 非常にまとまりのない言動・緊張病性の行動
5. 陰性症状(感情の平板化・無為)

## 統合失調症の中核症状

### 1. 統合失調型パーソナリティ障害

『妄想・幻覚・思考の解体(疎通性のない会話)・まとまりのない言動(緊張病性の言動)・陰性症状(感情の平板化・無為)』の5つの中核症状がはっきりとした形では見られず、健常者とはやや異なる奇妙な言動・奇異な信念が見られたり、現実的な認知・思考がある程度歪められたりしている状態をいい、統合失調症スペクトラムの中では最も軽度な障害

### 2. 妄想性障害(旧パラノイア)

妄想の症状だけが顕著に見られるもの

### 3. 短期精神病性障害

中核症状のうちの1つ以上が確認されても1ヶ月以内に完全に回復したもの

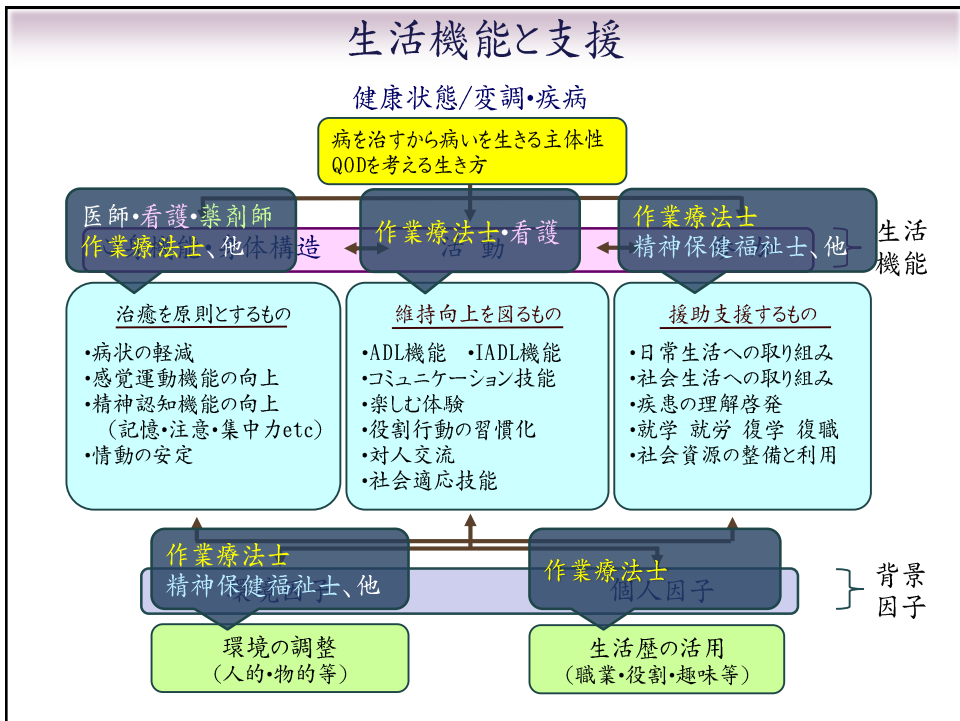
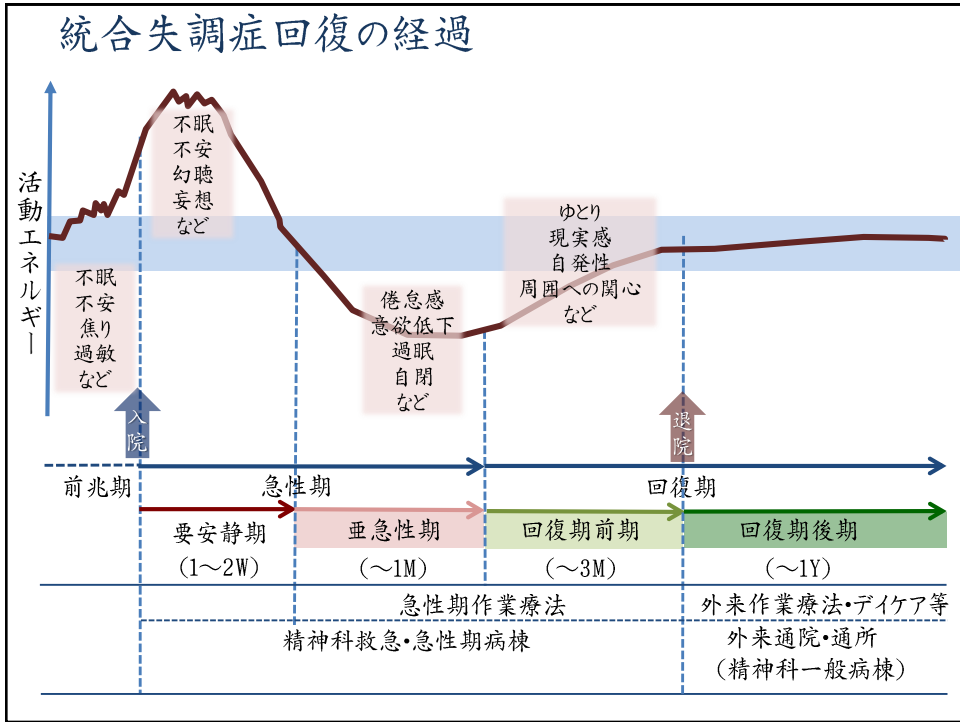
### 4. 統合失調症様障害

統合失調症の診断基準を満たすが6ヶ月以内にその診断を満たさない程度に回復したもの

### 5. 統合失調症

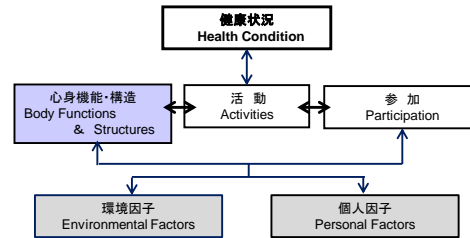
診断基準を満たす状態が6ヶ月以上にわたって継続されている病的状態

項目	内容
発症の特性	国や時代、文化を問わず生涯有病率が0.5～2%、平均的には約1%弱 小児期や老年期の発症もあるが、大半は思春期から青年期に発症
原因	遺伝的要因、生物学的要因と環境要因などによる脳機能の障害
性格傾向	内向的、繊細で傷つきやすい、社交性が乏しいなど
主症状	自我意識の障害(作為体験、意志・意欲の障害) 認知機能の障害(遂行能力や判断能力の低下) 精神運動機能の障害(行動の速度や反応時間を統制する精神機能の抑制や興奮) 知覚の障害(被害的な幻聴や幻視、体感幻覚など) 感情の障害(平板化、疎通性の障害) 思考過程の障害(的外れ応答) 思考内容の障害(被害的な妄想)
病型ICD-*1 病型*2	妄想型、破瓜型、緊張型、統合失調症後抑うつ、残遺型、単純型、他 統合失調症型パーソナリティ障害、妄想性障害、短期精神病性障害 統合失調症様障害、統合失調症
経過・予後	多様で3～4割は生活力回復 4～5割は残遺症状があり生活力は低下するが安定 1～2割は再燃、再発、残遺症状などにより生活に支障
一般的治療	薬物療法を中心に、心理教育、作業療法など生活技能訓練



## 心身機能の治療

薬物療法や心理社会的療法による病状の軽減  
治るものは治す  
治らないものは悪化防止



思考の障害(妄想)  
知覚の障害(幻覚)  
自我意識の障害  
意志・欲望の障害  
感情の障害  
認知機能障害  
(社会機能障害の主要原因)

### 作業療法の役割

病的症状からの早期離脱  
(服薬最少量による症状安定)  
二次的障害(遷延)の防止

### 思考内容の障害(妄想)の例

被害妄想：「近所の人に嫌がらせをされる」「みんなが悪口を言う」などと思い込む  
 関係妄想：周囲の出来事を自分に関係付けて考える。「あれは悪意の反めかしだ」など  
 注察妄想：常に誰かに見張られていると感じる。「盗聴されている」「監視されている」など  
 追跡妄想：誰かに追われていると感じる。  
 心気妄想：重い体の病気にかかっていると思い込む  
 誇大妄想：患者の実際の状態よりも、遥かに裕福だ、偉大だ等と思い込む  
 宗教妄想：自分は神だ、などと思い込む  
 嫉妬妄想：配偶者や恋人が不貞を行っていると思い込む  
 恋愛妄想：相手が自分に好意を持っていると思い込む  
 被毒妄想：飲食物に毒が入っていると思い込む  
 血統妄想：自分は天皇の隠し子だ、などと思い込む  
 家族否認妄想：自分の家族は本当の家族ではないと思い込む  
 物理的被影響妄想：電磁波で攻撃されている、などと思い込む  
 妄想気分：まわりで、なにかたどごとでないことが起きている感じがするなどと思い込む  
 世界没落体験：妄想気分の一つ、世界が今にも破滅するような感じがすると思い込む



### 知覚の障害(幻聴が主)

幻聴はしばしば自分を馬鹿にしたりけなすような被害的な内容、「通りすがりに人に悪口を言われる」「家の壁越しに悪口を言われる」、バスに乗ろうとすると「おまえなんか乗るな」という声が聞こえる」などと訴えることが多い。

統合失調症では会話型の幻聴が特徴的

### 自我意識の障害(作為体験が多い)

考想操作(思考操作):他人の考えが入ってくると感じる

考想奪取(思考奪取):自分の考えが他人に奪われていると感じる

考想伝播(思考伝播):自分の考えが他人に伝わっていると感じる

考想察知(思考察知):自分の考えは他人に知られていると感じる

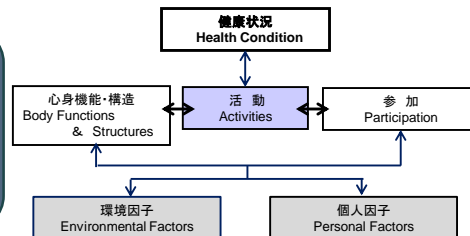
### 陰性症状に見られる障害

感情の障害(平板化、疎通性の障害、緘黙、拒絶、無為、自閉など)

思考の障害(常同的思考、抽象的思考の困難)

## 活動の制限

心理社会的療法による活動支援  
何ができないかより  
どうすればできるか  
できないことをできないままにしない



生活維持活動 [ADLの障害  
IADLの障害]

コミュニケーション障害  
対人関係技能障害  
作業遂行技能障害  
社会資源の利用制限  
その他の活動の制限

### 作業療法の役割

生活行為の再体験  
生活技能習得  
作業を介した認知行動修正

